

令和 6 年度第 1 回川崎市多摩川プラン推進会議 議事録

1 開催日時 令和 6 年 8 月 26 日（月）午後 1 時 30 分～午後 2 時 57 分

2 開催場所 川崎市役所本庁舎 3 階 302 会議室

3 出席者（敬称略）

委員長	吉富 友恭	東京学芸大学教授
副委員長	水庭 千鶴子	東京農業大学教授
委員	五十嵐 豊	NPO 法人多摩川エコミュージアム代表理事
委員	寺尾 祐一	NPO 法人多摩川干潟ネットワーク理事
委員	目黒 孝哉	味の素株式会社
委員	小野 貴之	富士通株式会社
委員	堀 良通	市民公募
委員	江原 和人	市民公募
委員	坂本 享彦	市民公募
委員	大野 智弘	国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所事業対策官

4 議事

- (1) 令和 5 年度新多摩川プラン【多摩川は今】の報告
- (2) 多摩川緑地等における施設の整備について
- (3) 市民協働の取組及び多摩川緑地等の利活用について
- (4) その他

5 配布資料

- ・ 次第
- ・ 令和 6 年度川崎市多摩川プラン推進会議委員名簿
- ・ 別冊 多摩川は今 令和 5 年度川崎市新多摩川プラン実施事業報告書
- ・ 資料 1－1 令和 5 年度の主な施設整備・補修工事について
- ・ 資料 1－2 令和 5 年度ふれあいロード路面標示等補修箇所
- ・ 資料 1－3 ふれあいロードの英語表紙について
- ・ 資料 1－4 多摩川の利用に関するアンケート調査結果について
- ・ 資料 2－1 市制 100 周年記念事業「復活！登戸の渡し」
- ・ 資料 2－2 川崎市多摩川丸子橋河川敷のにぎわい創出に向けた新たな利活用事業の事業者決定

6 公開又は非公開の別 公開

7 傍聴人の数 なし

8 発言の内容 次のとおり（要約方式）

—開会—

【事務局】（事務連絡・会議の成立に関する説明）

【緑政部長】（挨拶）

【吉富委員長】（傍聴人確認）

<議事(1) 令和5年度新多摩川プラン【多摩川は今】の報告>

【事務局】（資料に基づき説明）

【堀委員】表紙のタイトル位置について。冊子はラックに配架されることが一般的なので、タイトルは上に表記した方が良い。

【坂本委員】冊子の配布場所と部数について。過去の議事録などを見ていると、市役所や図書館には配布が難しく、かつ部数も予算の関係で400部ほどしか刷れていないということだったが、今年はどうか。

【事務局】今年も同じ部数で発行しているが、予算等の調整でもう1回印刷できる可能性がある。配布場所については、以前、区役所で冊子がなくなり、白黒のコピー版を配布していたが、フルカラーでないと内容が分かりづらかった。役所全体で電子化という流れはあるものの、手に取って読んでもらうことも重視していきたい。部数増については予算の範囲内で前向きに検討していきたい。

【坂本委員】その方が良いかと思う。また配布場所については、部数が少ないのであれば、より興味を持って見てもらう場所を選ぶのはどうか。市役所・区役所には市政だより、その他冊子がずらっと並ぶが、その中であえて「多摩川は今」を手にするのは、よっぽど多摩川に興味がある人じゃないと選ばない。たとえばラーメンが食べたくてラーメン屋に行って、そこでピザのメニューが出て来てもほとんどそのメニューは見ないのと同じ。

だからより多摩川のことに興味があるような人が集まる場所が良いと思う。たとえば私は釣りが趣味ということもあり、多摩川と聞くとどんな魚がいるのか気になるので、釣具屋に置いてみるなど。単純な発想ではあるが、そんな風に設置場所も少し考慮してみるのも一つではないかと思う。

【吉富委員長】この冊子については毎回、配布数と残部数、ダウンロード数について議題に上がっているところ。釣具屋やアウトドア用品を扱うところ、河川に関する博物館や資料館、研究をしている大学、川に興味を持つ人たちなどをリストアップして届けることも必要で、現状の分析を行い、その結果をふまえ、今後の配布先の候補を提案してほしいと思う。

国土交通省が管理している川の資料館が全国130以上ある。そういったところにも協力を仰ぎながら調整してみてもどうか。

【事務局】 関心層に近い場所に置く形は魅力的だと思う。河川に興味を持つ人が集まる場所は他にもあると思われるので、検討の上、次回の会の際に確認したい。

【小野委員】 多摩川は今と多摩川プランの周知について。QR コードでのアクセスも一つの手だと思うが、実際来ている方に興味を持ってもらうために、現場にそういった内容の掲示板を置くというのはどうか。費用もかかるのでたとえば先ほどご紹介いただいた案内板のところからですか、そういうやり方も少し考えていただければと思う。

もう一つ質問で、現在は市制 100 周年などで様々なイベントをやっていると思うが、そういったイベント事業と連携した「多摩川は今」「多摩川プラン」の周知は予定しているのか。

【事務局】 周知できているかというのと、やれてないのが現状。川崎市の 100 周年のホームページにイベントカレンダーが出ていて、100 周年イベントという冠がつくもの、たとえば登戸の渡し復活事業といった事業はそこに掲載可能。ただ多摩川プランをそのままとなると調整はついていない。現状の規則・制度の中でできる限り取り上げていく。

【寺尾委員】 冊子の配布場所について。予算の関係もあるということだが、川崎市には小学校が 114 校ほどあるので、そこに配布するのはどうか。たとえば先生方の校外学習の一助になるのではないか。

【江原委員】 多摩川のふれあいロード含めて、沿線上の関連施設にはこの冊子を置いてほしい。せせらぎ館には既に置いているということだが、それ以外にも休憩所やパークボール場などにも置いてほしい。

加えて、「多摩川は今」にアンケート情報を集約したものを載せるのはどうか。これだけの利用者がいるので、フィードバックとして活用してほしい。

また、アンケートは多摩区の菅地区から川崎区の大師河原地区まで置いていたということだが、出来れば地区別の回答割合が分かるようにしてほしい。地区の中でもトイレの数とか違えば回答の集約精度に関わってくる。もうちょっと詳細な形で分かったとありがたいなと思う。

<議事(2) 多摩川緑地等における施設の整備について>

【堀委員】 アンケートについて、6 割が施設整備に満足しているため増設の必要はないとお考えだが、それでも必要な施設がある程度あるように思う。たとえばベンチの増設など。特に高齢層に向けて充実してほしいと思う。アンケートをやった方に、「既存施設の適切な維持管理」だけでなく、「設備を充実させていく」という前向きな姿勢を示すことを検討してほしい。

【事務局】 アンケートについては、実際に実施してみると水道・トイレ以外にも重要なアンケートの設問の仕方があったのではないかと指摘を受けている。また、川崎区から多摩区までの広大な緑地を管理しているので、どの場所についての要望かというところがピンポイントで分かりにくかった。今回は自由回答欄にその旨を書いてあるものも

あったが、今後、QRコードをその場で読み取ると、どの場所か分かるようにするなどの工夫が必要。アンケートは職員が行っているため、多少の手間は発生するが、今後検討していく。

【吉富委員長】回答数が432人と、これだけのデータがあるので、もう少し設問等の工夫ができれば様々な解析に使うことが出来ると思う。

【江原委員】ふれあいロードの看板の英語案内について。英語併記を看板が傷んできたらその時に直すということだが、二子から武蔵小杉の間は外国人が多い。外国人と話すことは出来るかもしれないが、漢字やカタカナひらがなは読めないかもしれない。となるとやはり路面上にランニングロードの案内や、逆に禁止している場所などピクトグラムにプラスアルファで定義する必要がある。

また、ハンプを作るなど路面上の工夫を様々やっている中で、雑草が生えないようにと2年前に植えた芝生について。芝生が管理されておらず、伸びっぱなしで用を為していない。その維持管理を真剣に考えていただきたい。お金を無駄に使っているような感じがする。

もう1つ、多摩川の土手からふれあいロードまでの階段に道があるが、そこも芝生の管理がされていない。いざ避難が必要な時にその階段がよく見えず、防災や安全管理の面から定期的に刈り取るなど、そういう委託契約を含めて真剣に考えていただきたい。

【事務局】路面表示のシートの中の限られたスペースに英語表記ができるかという問題もあるので、それは少し可能であるか考えていきたい。

芝生については、川崎市が工事を行うのは、ふれあいロードの拡幅工事の部分。拡幅し、路面の一番端のところが、工事により草だったところが、土になった場合は復旧をしなければならない。草を復旧するのはなかなか難しいため、芝を張って自然に草に戻すという工事を行っている。芝をずっと管理しようという趣旨ではなく、年3、4回という草刈りに向け、速やかに復旧するために芝を張っている。

階段の草場に関しては、川崎市で占有して管理している階段については、左右1メートルの範囲では草刈りを行なっているが、それ以外の場所については京浜河川事務所と連絡をしている。この件は市民から指摘をもらうこともある。京浜河川事務所でも階段を管理しているので、その都度、誰が管理しているのかを確認しながら対応している。京浜河川事務所の草刈りは、市の草刈りのタイミングとは回数が違うため、なかなか折り合いがつかない。利用者にとっては一番不便な部分ではあるが、施設の管理者が違うというところを了解していただきたい。

【江原委員】国交省と京浜、川崎でやっているパトロールについて。1日のどういうタイミングでどういう頻度でどんなことをやっているのか、どういうところをチェックして、どんな問題点が出ているのかなど、四半期ごとでも取りまとめた報告書などを出せないか。

【事務局】原則、川崎市のパトロールはグラウンドなどの有料施設の管理をメインでやっ

ている。例えば雨が降った後にグラウンドが使えなかったから料金を免除する、その可否を判断するなど。他にはトイレの点検などを担っている。もちろん日報をつけているが、異常があったものだけをピックアップして集計しているため、毎日の情報をエクセルに入力して管理ということはやっていない。毎日行っているのは確かだが、どういう結果だったかというまとめは今のところ省いている。

【江原委員】その辺のところを検証して成果を上げるように努めてもらえれば、より詳しい状況が市の方に十分伝わるのではと思うので、検討してほしい。

【五十嵐委員】アンケートについて。これは今後もぜひ続けてほしい。特に土日祝日は多摩川の利用者が多く、またほとんどがサイクリングロードを使っていると思う。特に自転車で来ている子供も多い。そうするとサイクリングロードでぶつかってしまうなどのケースが出てくると思うので、それをアンケートというよりもヒアリングで、たとえば1日立ち会って調査するなど、アンケートにプラスするような形のことをしていただきたいと思う。

【大野委員】アンケートについて、QRコードが良いと思った。夏休みの多摩川教室が31年目になるが、我々も相変わらず鉛筆を持ってアンケートを書いてもらうということをしていた中で、若いお母さんたちから「QRコードでやろうよ」と言われたのでタイムリーだと思った。

あとはパトロールの件があったが、パトロールはやはり国で定められていて、予算の都合もあると思われるが、おそらく京浜については1日に一回りやっている。実際の活動内容はホームページで出しており、この時期は台風に備えて堤防が安全かどうか、崩れていないかなどが中心。洪水があった時は必ず点検をしており、特に最近はゲリラ豪雨もあるため、崩れているところがあれば早く修繕して、次の台風に備えるということをしてこの時期はよくやっている。利用者というよりは、河川管理施設の管理がメイン。

【水庭副委員長】河川の管理、雑草の管理など、安全性に関わるところは見てほしいと思う。また、連携して施設管理や、清掃活動などをしていると思うが、これだけ広大な面積の安全性を管理するとなると、機械などを導入してみるのはいかがでしょうか。

<議事(3) 市民協働の取組及び多摩川緑地等の利活用について>

【寺尾委員】バーベキュー会場について、丸子橋のところが増えたと聞いているが、二子橋のところの利用状況は今どうなっているのか知りたい。例年伸びているとか減っているとか、何かデータはあるのか。

【事務局】コロナ禍以降には予約制としていた関係で、コロナ前の事前予約不要の時に比べると減ってはいる。令和5年度が約3万7000人、コロナ禍前の令和元年度の年間利用者数が約10万人の利用があった。

【寺尾委員】あとは新多摩川プランという名前に逆行するかもしれないが、多摩川はなぜ現在の形になったかということを知りたい。幸区を中心としてアミガサ事件というのが

あったと記憶しているが、あのような歴史的なことも掲載できればいいと思う。

【事務局】自然状況が変化している中で、事実の検証や掲載する内容をどのようにしていくかも重要な視点である。

【五十嵐委員】登戸の渡しの件で、個人的に大きな期待を寄せている中で、雨や風などで出来ない可能性について。まさに昨日、世田谷区の教育委員会で、アドベンチャー多摩川といって世田谷区の小学生たちを集めて 50 何名でイカダ下りをやる予定だったが、前日の雨で川の水量が増えてしまい、中止になってしまった。川を利用することは難しいと感じており、仮に渡しが出来なくても、船が出なくても、何か 100 周年の記念に何かイベントが出来るようなことを考えてほしいと思う。

【目黒委員】自分の場合は下流側の河口付近に会社が建っているため、一番水に近いようなところにいる。行政でも色々な取り組みを逐次やっているという印象。ふれあいロードについても、土日等含めて、自転車で利用する人も散歩をしている人もいて、ふれあいロードだけでないところを散歩する人もいる。予算のかけ方は色々あると思うが、有効に使える部分を引き続き意見を出しながらやっていってほしいと思う。

【堀委員】先日、日本テレビの「ザ!鉄腕!DASH!!」で川崎競馬場練習馬場と多摩川の本流の間の茂みに狐が 5 匹ほど住み着いているという話が何回かに渡って放送されていた。それはテレビ局から行政の方に取材連絡等があり、承知の上でのテレビ放送をしているのか知りたい。行政も協力か何かでテロップに名前が出てくるのかと思っていたが、そういうのは一切なかった。主に麻布獣医大学の動物の教員と学生たちが中心になってモニタリングしていたが、あそこは多摩川の河川敷なので、市あるいは京浜河川事務所に連絡があって取材をしていたのではと思ったが、そのあたりはどうだったのか。

【事務局】撮影に関しては、多摩川緑地は公園と同じ扱いのため、グラウンドやふれあいロードなどに機材やクルーが撮影に入る場合は申請をしてもらっている。恐らく今回の番組については競馬場か、河川敷の方は京浜河川事務所の管理になるため、市には申請は来ていない。

【大野委員】国交省の一時使用届は必ず提出されるが、現場の出張所に出すため、行政側には来ていない。

<議事(4) その他>

【事務局】前回の推進会議において議題に上がった、多摩川プラン改定に向けた、委員及び行政を対象とした最近の取り組み・計画・事例等について学ぶ機会の必要性について。例年の推進会議では 8 月と翌年 2 月の年 2 回の開催を続けてきたところではあるが、今年度は秋に勉強または研修会という形で集まれる場を検討中。

これまでの推進会議では、多摩川プランに欠けている視点や評価すべき点のキーワードとして、流域治水・水循環・グリーンインフラ・生物多様性などが中心だったが、勉

強会・研修会に向けては事務局からの提案として、秋に開催の「全国都市緑化かわさきフェア」のメイン会場の一つである富士見公園に設置されている、雨水の貯留機能を備えたレインガーデンというものの視察を予定している。

視察後については、国土交通省の派遣職員による出前講座の受講といった半日程度の講習会の開催を検討中。講師に関しては委員の意見をもらった後、関係各所と調整予定。特に国交省の派遣職員による講義に関しては、今年度は国の方でグリーンインフラのガイドラインが策定・公表される予定というのもあり、直近の取り組み事例などを紹介してもらいたいという風に考えている。

—閉会—